

松浦佐用媛石魂録

後集卷之二

13
3240
7



門へ 13
3240
卷 7

然るに其の病著る某日夜看とりまゐるに起臥の度毎に親しく
承子力代見らるる屋敷の
然して曲るるの
然るに其の病著る某日夜看とりまゐるに起臥の度毎に親しく
承子力代見らるる屋敷の

昭和十年
七月九日
晴

小本己

余伊

福嶋

宮崎

最中の長兄の病著る某日夜看とりまゐるに起臥の度毎に親しく
承子力代見らるる屋敷の
然して曲るるの
然るに其の病著る某日夜看とりまゐるに起臥の度毎に親しく
承子力代見らるる屋敷の

石鬼録後集卷之五

八
二十金軒藏

助大刀しく仇人加二郎を討捕らしめり。や千僧萬卷の讀經ゆも
すく成佛せ頼まらばこののまけ引受とら口説く声も弱く血ま
塗まてるるを戦しく伏拜む忠信義僕は今般の懺悔ハ理で逼て哀れ
るの心枕せざる堪へり。とよとわたり泣沈みる涙の向は頭を擡ぐ喃二三
郎否俊平とのあし月の母の心標の好もあまらふもあまらふ為め親と
は名ハ削られぬ養育の恩を思ふが河竹の淵瀨に沈められるも時の災難を
身の薄命況あし月も棄られぬ。艱苦を歴す良主は仕へ忠義を盡せ
る。このあまらふとくもさうけし姉さうさうも身の宿業とて諦めぬさうも
心の怜利を汲みたる最惜しやまらぬあまらふ姉弟さうさうも睦く世中
在りる。憂ま就樂なき就く憑りた相譚敵とる。さうは會人を別きの悪
因縁あし月が母の業報む姉は較む。このさうさうも花街ありし時

容を詐謀と身を脱れる。報ひあまらふ口一箇を殺せとのられせん。
哀れたる声さう。泣く嗚ら線返る。草環さうさう。糸秋も涙の雨小頭
無れく。痞押もも撓ける。二人の回。秋布も膝を進め。俊平疾も
ののいひ。親族達の愁嘆と吾侪の疎忽恥らひ。先より泣く
わらむ。この年未の忠心義膽心とる。夢寐も心はゆめ。潔白の心も
其処は頭も痛まら。惜しともいひ盡されぬ哀傷悲愁のあまら
絶くあまら。如之の神中の佛も捐られ。けんこれ。宿世の業の廻
む。世の存命とあまら。限り朝も夕も唱名讀經。和殿の苦授成
吊ん願ふ一念正覺の性生せ。も。唐めくる声。俊平ハ然る物
ひ。古點頭の。登時あ。若二郎の父なる。を釋く。空うち柳。嘆
勝む。嗚呼天。哉命。哉。村澤氏果敢。た。夢をもあ

羞^{たぢ}ふ^{らう}老^ち実^{じつ}の^{こころ}心^{こころ}潔^{けがれ}し^ま且^{かつ}そ^の死^し臨^{りん}む^す一^{いつ}言^ごも^も私^{わが}及^{およ}ぶ^{こと}さ^ら宿^{しゆく}業^{ごう}成^{じやう}
 感^{かん}む^るの^{こと}身^みの^{ため}為^{ため}妻^{つま}の^{あつ}弟^{あに}是^{こゝろ}假^{かり}初^{はつ}の^{ごころ}義^ぎあ^らん^ば身^みの^{あつ}隻^{しやく}足^{あし}不^ふ由^{よし}
 由^{よし}ゆ^りく^は旅^{りょ}行^{ぎやう}便^{べん}の^{ため}を^め杖^{つゑ}推^{おし}り^て車^{くるま}坐^まし^て後^{のち}室^{むろ}の^{たす}助^{すけ}太^た刀^{たう}
 ち^{やく}人^{ひと}を^う敷^しき^りす^べや^り己^{おのれ}ん^の義^ぎ心^{こころ}安^{やす}ま^す一^{いつ}願^{ねが}ふ^{こと}一^{いつ}宵^よの^{あつ}悪^{あく}夢^むも^あ恥^ち
 人^{ひと}の^{あつ}誠^{まこと}も^{あつ}罪^{つみ}障^{さう}も^{あつ}亦^{また}車^{くるま}の^{あつ}向^{むか}む^{こと}も^{あつ}似^にれ^ども^{あつ}妻^{つま}妓^ぎ院^{いん}も^{あつ}時^{とき}某^{たれ}も
 浮^う浪^{らう}花^{はな}を^{あつ}常^{とこ}の^{あつ}蛺^{てう}蝶^{てつ}の^{あつ}香^{かう}を^{あつ}さ^らう^{こと}通^{とほ}ひ^か初^{はつ}く^{こと}流^{なが}る^{こと}を^{あつ}契^{ちぎ}す^{こと}
 財^{さい}盡^{じん}て^はつ^とも^{あつ}東^{あづま}夜^よも^{あつ}稀^{まれ}ま^じり^て比^ひれ^ど枕^{まくら}上^{うへ}毛^{もう}も^{あつ}木^き瀬^せ屋^や敷^し金^{かね}吉^{きち}と
 商^{しやう}旅^{りょ}の^{あつ}償^{たがひ}身^みさ^られ^ど上^{うへ}毛^{もう}へ^{あつ}伴^{ばん}も^{あつ}道^{だう}中^{ちゆう}あ^つ身^みを^{あつ}脱^{だつ}き^り影^{かげ}を^{あつ}隠^{かく}し^て
 浪^{らう}宅^{たく}も^{あつ}索^{さく}の^{あつ}ま^じり^て留^{とど}め^て様^{やう}々^々と^{あつ}由^{よし}を^{あつ}報^{ほう}く^{こと}願^{ねが}ふ^{こと}夫^{おつと}婦^ふも^{あつ}ん^どの^{あつ}斯^{ごと}く^{あつ}
 今^{いま}あ^つる^{こと}非^ひを^{あつ}飭^{しやく}る^{こと}似^にれ^ども^{あつ}其^{その}性^{じやう}と^{あつ}道^{だう}不^ふ違^{ちが}は^らぬ^{こと}を^{あつ}好^{この}ま^す親^{おや}の
 財^{さい}息^{そく}を^{あつ}費^ひせ^り人^{ひと}の^{あつ}伴^{ばん}遊^{ゆう}女^{にょ}の^{あつ}遁^{とん}れ^まる^{こと}を^{あつ}幸^{さい}ひ^めく^{こと}相^{あひ}伴^{ばん}り^て賊^{ぞく}も^{あつ}あ^つか^らぬ^{こと}

か^まと^あひ^りく^{こと}不^ふ古^こバ^バ生^{せい}く^{こと}と^あひ^り詰^{つめ}る^{こと}女^{にょ}子^しの^{あつ}一^{いつ}念^{ねん}の^{あつ}抗^{かう}言^{ごん}ひ^りと^あ
 わ^を懐^{なつ}ま^じり^て窮^{きゆう}鳥^{ちゆう}を^{あつ}獵^{りやく}夫^{おつと}の^{あつ}小^{せう}渡^{たう}え^んや^と身^み勝^{かつ}も^{あつ}弱^{じやく}氣^きの^{あつ}過^あ失^{しつ}
 遂^{つい}お^つ枕^{まくら}を^{あつ}推^{おし}り^て地^ちは^{あつ}道^{だう}れ^ど人^{ひと}の^{あつ}師^しと^{あつ}り^て浮^う世^せを^{あつ}渡^{たう}る^{こと}程^{ほど}病^{びやう}痾^{かう}
 上^うり^て羸^{れい}弱^{じやく}不^ふ具^ぐの^{あつ}行^{ぎやう}歩^ぶも^{あつ}人^{ひと}並^{なら}ぶ^{こと}人^{ひと}を^{あつ}掠^{りやく}め^り天^{てん}の^{あつ}冥^{めい}罰^{ばつ}刺^さ女^{にょ}見^みら^ぬ
 壻^{しよ}の^{あつ}浦^{うら}二^に郎^{らう}は^{あつ}添^そふ^{こと}と^あゆ^りま^じり^て旦^{たん}暮^ぼの^{あつ}れ^をあ^つて^は是^{こゝろ}人^{ひと}の^{あつ}出^{しゅつ}示^し然^{ぜん}と^あ快^{かい}
 う^らぶ^{こと}あ^つの^{あつ}け^りも^{あつ}亦^{また}枕^{まくら}が^{あつ}弟^{あに}と^{あつ}あ^つる^{こと}斫^{せつ}倒^{たう}せ^りも^{あつ}罪^{つみ}惡^{あく}の^{あつ}報^{ほう}ひ^りと^あ
 觀^{かん}念^{ねん}ま^じり^て禍^{わざはひ}鬼^きの^{あつ}黄^{わう}縁^{えん}と^{あつ}り^て其^{その}因^{いん}麻^まも^{あつ}る^{こと}出^{しゅつ}示^しを^{あつ}ま^じり^て亦^{また}
 測^{そく}く^{こと}あり^て是^{こゝろ}由^{よし}を^{あつ}彼^かを^{あつ}ど^きへ^り村^{むら}澤^{さく}氏^しの^{あつ}罪^{つみ}障^{さう}懺^{ざん}悔^{かい}の^{あつ}想^{さう}像^{ざう}の^{あつ}過^ある^{こと}吉^{きち}次^じ
 悔^{かい}も^{あつ}世^よに^{あつ}在^あり^て今^{いま}の^{あつ}人^{ひと}の^{あつ}忠^{ちゆう}魂^{こん}義^ぎ膽^{たん}を^{あつ}面^{めん}に^{あつ}ま^じり^て憾^{ごん}む^{こと}と^あ縁^{えん}
 返^{かへ}り^て慷^{かう}慨^{がい}嗟^さ嘆^{たん}の^{あつ}臉^{れん}を^{あつ}頻^{ひん}り^て屢^る勤^{きん}の^{あつ}外^{がい}面^{めん}に^{あつ}立^た旅^{りょ}虚^こ益^{やく}僧^{そう}の^{あつ}折^{せつ}戸^こを^{あつ}推^{おし}
 け^り咳^かき^りめ^りめ^りの^{あつ}あ^つひ^りと^あを^{あつ}れ^ども^{あつ}分^{ぶん}分^{ぶん}回^{かい}る^{こと}雲^{うん}隠^{いん}れ^り夜^よの^{あつ}月^{げつ}の^{あつ}行^{ぎやう}暮^ぼり

たは修行者小今宵の宿りを思ませぬと面人齊一呼門々進入りて天
 蓋を掻取捨之縁頬より障子の裡面は推並ぶを秋布を多く見たりと
 驚るるがう遠く身邊へ寄るをえりてさう。さういふるや采女も尚存命で
 ませし秋葉七も恙なくら連拉く末まきハ夢欲現欲亡魂の如幻頭を
 ぬ秋緯の容子を告てと推方を掻遣り推分る糸秋も亦忙しげ小喃
 浦二さあ恙もさ何の程も還らせぬ。舎兄の仇を敷きんを旅虚に届
 姿を窺しと諸國を遍歴するのみ秋生別れくを二松長月日小只
 一いびものうの譯と玉梓の信せせくもさす。心づき。心づき。枕も亦
 共侶は絶く久し浦二どの無支の對面めてさ。秋公親子を推退る秋布
 いと赤らちく喃くさまお刃の仇を敷きんと。旅路は三松を送りて。艱
 難苦勞の久し。ゆゆも不測は環に會ぬるも。おとあさるゆゆ。動の

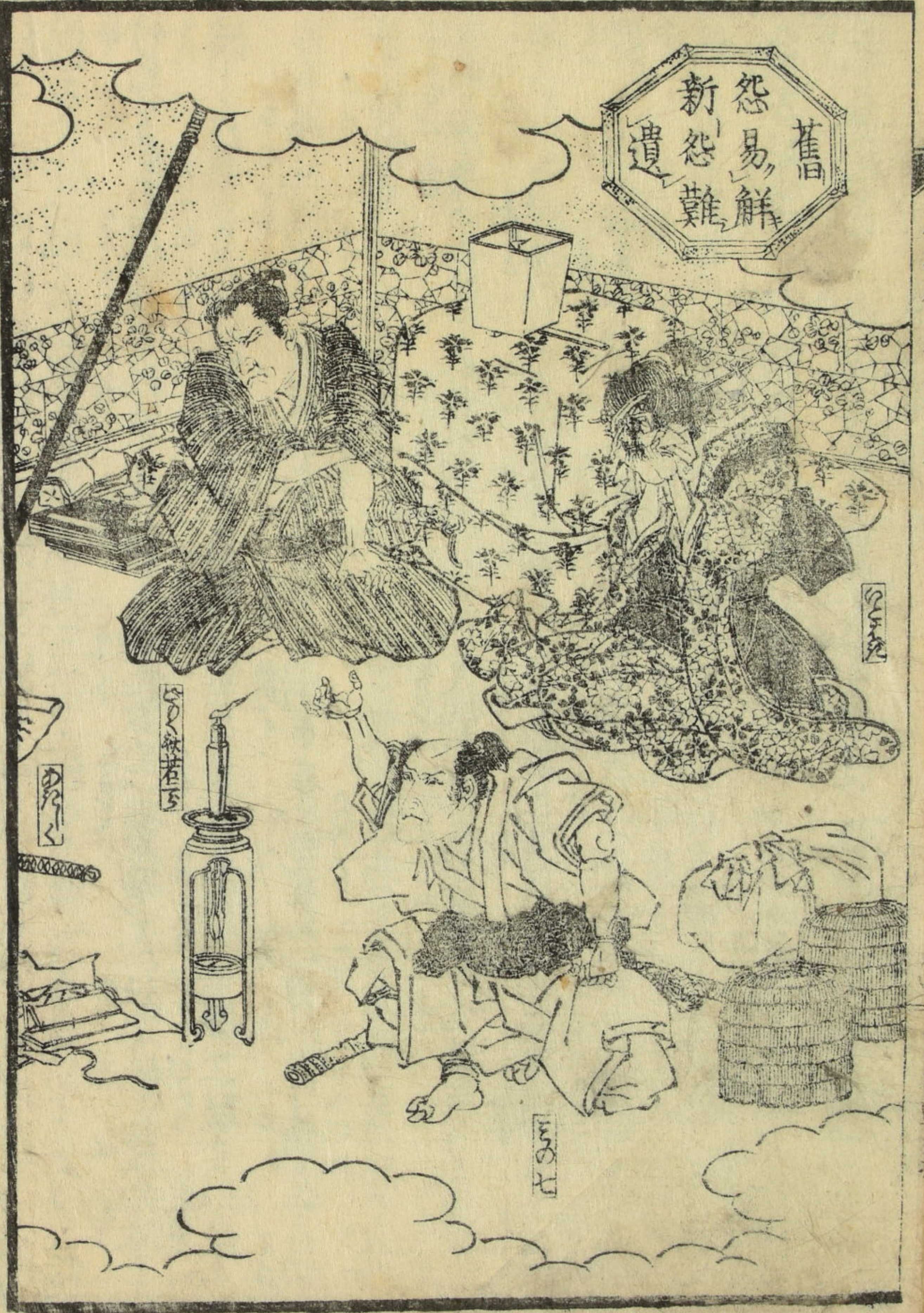
濱めく加三郎ホハ敷れぬ亡骸の波は引れく往方も。と止す。と
 せぬ。その虚言をゆり秋剪一頭髮の二鬪ゆび結糸妹と仗の縁
 嬉しれ再會の譯をさうくゆひ。といひも果む糸秋の襟上取く引戻。
 ちを無礼過る人のむあ。さうが男は馴々多くおん心の乱き。秋といは
 る。窘めく二人の間か推直れ。否然。と秋布の肩に魂角芽立。ち
 蘆分舟のうけ。ぬ女児の加勢。ふ。枕も氣色変わり立。ま。若二
 郎ややと呼禁めく。あ。大人氣。さ。枕も又寛ゆる。さ。と駭か。糸
 秋も憤。さ。枕も。さ。糸秋。さ。為。只。一。ち。さ。小父俊平の臨
 終。さ。面影の違。さ。と。人。と。郎。さ。是。狂。人。の。所。為。す。と。誰。か。と
 い。さ。る。死。定。ま。鳥。許。の。限。り。退。死。居。よ。と。高。聲。さ。吐。り。懲。り。と。坐。行。さ。浦。二
 郎。と。の。る。目。誰。も。違。の。ぬ。を。さ。秋。布。の。刀。自。も。亦。和。殿。を。り。て。良。人。と。い。今。ち。



口

口

舊 怨 易 解
 新 怨 難 遺



口

口

口

正 絆のあつをぬく。あつ邪猜めあつぬく。二松の程は秋布とて夫婦の
 約束せられ秋壁の色は迷ふとも嫂と不義をせむ。和殿をうんたつやく
 とひさげぬ。死事の情を詳し説示し音曹の迷ひを解し。詰言を吉
 次勝を進め初て根塚氏裏の某を圖らる。外面に立在て仇討の言又の
 錯悞俊平が不慮の劍難且人々の向答と懺悔の由を説き。圓
 居不入らぬ。とどまり一ふあつぬく。悲歎し要時胸の塞す將絆の責を
 折らんとす。稍只今及ぶ。某と浦二郎と。雙生をあらはれ。面影の
 似る。語音應對進止。嘆く。違ふ。と。動もされ。兄を
 弟と思ひ。諍ち弟を兄と認違らる。日比親に達す。然る錯悞の間々あり
 一と況對面一兩度。その後別。年を懸ら。浦二郎。某と浦二郎
 ひとあられ。疎忽。似く疎忽。あつ。豫くも愚名。浦二郎。

比瀬川来女吉次。又某。立代。相摸。動の濱。鼠川加二郎。赤
 面戦。大洋。漂。則。弟浦二郎。秋布。抑去。
 蓋。縁由。詳。告。人々。静。秋布。抑去。
 出。比某。矢田の陣中。平洲九郎清繩。追。鬼。末の龍。華に
 到。時。圖。実母。王嶋。弟浦二郎。環。會。母。王嶋。義。忽
 自。殺。叔父。清繩。先。非。悔。伏。折。某。熟。相。一。
 必。死。の。厄。難。近。弟。浦二郎。代。既。鎌倉。君。命。傳。入。さ
 日。到。著。の。使。博。多。倍。太。郎。索。某。召。入。君。命。傳。入。さ
 穴。実。母。の。喪。あ。れ。極。送。の。免。許。願。第。の。家。七。日。還。田。一。
 程。浦。二。郎。の。叔。父。清。繩。の。送。言。を。固。く。守。り。鎌。倉。へ。趣。某。の
 厄。難。を。代。ら。ん。と。ひ。く。然。て。多。身。を。脱。る。と。弟。を。殺。す。の。真。意。あ。ら。ん。

加以五右衛門と欺死なるの怖れをいふもその義は一切後ひくと推辞つ辞の
果され所詮同胞共侶は鎌倉へ行くといふ浦二郎は伊萬里なる根
塚氏の獨女兒糸救とて婚姻の約束をとりて告ぐ東行は尚餘日あ
ら辞別もいふやとく商量定らるるなりとてその宵浦二郎が又いふや同胞
俱は鎌倉へ同船しくもえとありの遠謀るを似たり願ふ要時某は姓
名を借し又出帆の日よりと某は瀬川采女吉次と假稱しく官船に乗て
東に至らん又又瀬川浦二郎と假稱しく陸地を鎌倉へ駛り幸ひ
多く水陸とも同胞無異は東著せりあてく名字を舊より久しく各々夜
裳を脱改め扱鎌倉に到ると又君を欺く傍難るく送は運を試もふ
方あり某は船中ゆく火害ありいふとも嫡家敏者目まるるとの聊も憾るし
この議をうけ引るも今面り腹を切て未然の厄は代らんを以て訣する

面魂は某竟ふ争ひくく僅よの意に任せし浦二郎然して然やあはれ
翌の曉は某が衣裳を被り伊萬里へ行根塚氏親子の人々を云云と
告ぐ辞別をいふは後々相識る彼人々の聊も疑ふところ浦二郎は思
ひ鎌倉君まで同胞が名を替り替り赴くと影護死のるしとの義は後
あひひと眞実をいふ且く不古といはんはあてこれるをの意に任せし折あ
來ぬの浦二郎も某の之て末の罷革る宿所へ還れば弟をいふ出居の
柱は送りし消息あると立よりいふ某が伊萬里へとせりぬるその日よえん
博多倍太郎より書翰到来しく東行を催促せし且倍太郎は曉に
陸地より帰府をいふは是れ浦二郎の某が甲冑を被り某が後着を
具し先矢田の陣中へ到り実政ぬし見参し舟行を鎌倉に赴く舟一亦
某の浦二郎が衣裳をとり行装を整へ家々鄰に莊客們小をね措てて

鎌倉へ還りぬ。遅速ありとの事。藤澤より俵合せん。この意をいさむ。あ
る某これ心忙で形の如く準備し、潜びて獨陸地より鎌倉へ還る程。起り
日も後れ、浦二郎が乗る船の日毎、順風あり、某先んて大約十日
たより多し。某の花月の比、稍藤澤まで、鎌倉の風声、浦二
郎の勤の濱、鼠川加二郎ホ、撃たれる亡骸の波、引き、忽地、往方、知
らざる、又某が、勇博、弥四郎の、箇様々々の、其、既、誅戮せられ
たりとの、巷談、街説、定まる、某、某、且、進退、あり、此
の比、経高が所在を、索て、よく討捕するの、あ、如此、々々の、恩賞、あり、後罪
ある、との、事、を、免され、と、徇、せ、る、下知の、市中、へ、某、某、思、
号。叔父清繩の、説相違、を、某、名、を、冒し、る、第、果、く、災害、命、を、喪、
ゆる、悲、し、けれ、然る、を、又、今、其、鎌倉、へ、り、来、り、云、云、と、言、え、

○私、の、相謀、の、事、第、二、姓名、を、使、る、守、を、欺、る、怠慢、の、罪、あり、と、せ、られ、
ん、朽、を、の、所、詮、且、く、世、を、潜、び、く、第、と、冒、の、仇、人、を、加、二、郎、と、撃、手、捕、ま、
并、賊、首、経、高、が、所、在、を、索、し、捕、ま、鎌倉、へ、牽、り、来、り、恥、を、雪、め、面、を、
幾、毛、是、小、優、る、大、功、あり、と、吐、裏、め、て、尋、思、を、旅、店、に、借、り、打、扮、す。
安房、上、総、へ、り、渡、り、下、総、常、陸、へ、り、越、路、陸、奥、の、盡、処、ま、る、偏、
せ、る、所、を、公、私、の、讒、言、を、索、し、る、旅、宿、を、年、を、男、の、の、ま、の、便、を、
○この、春、の、京、師、より、浪、速、津、を、経、歴、せ、し、よ、夜、間、其、長、七、宮、嶋、
ゆ、莊、客、們、被、撃、ち、ら、し、逃、れ、來、り、る、圖、を、捕、ま、る、秋、布、を、
相、具、し、く、三、稔、仇、人、を、索、め、る、も、及、り、里、に、加、二、郎、が、隠、れ、を、り、と、聞、て、

